

平成29年度

病害虫発生予察情報 第8号

注意報第3号

北海道病害虫防除所 平成 29 年7月7日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

てんさいの褐斑病が早発しています！ すみやかに防除を開始しましょう！

てんさいの褐斑病の初発が確認されています。予察ほにおける発生は長沼町、芽室町、訓子府町いずれの地点でも平年より早く確認されています。

札幌管区气象台による7月6日発表の1ヶ月予報によると、8月7日まで気温は平年より高く予報されています。本病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延するとされており、今後多発する可能性が高いと考えられます。

本病の防除は初発直後までに開始すると最も効果が高いことから、すみやかに防除を開始してください。その後も小麦の収穫作業等により防除作業が先送りになって、薬剤の散布間隔があきすぎてしまわないよう計画的に防除を継続してください。

1. 発生地域 全道
2. 発生時期 早（既発）
3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 予察ほでの初発は長沼町の「あまいぶき」で7月4日（平年：7月11日）、芽室町の「あまいぶき」で7月6日（平年7月13日）、「スタウト」で7月6日（平年7月17日）、訓子府町の「リッカ」で7月3日（平年：7月12日）と平年より早く確認されている。
- 2) 本病は高温多湿条件で多発するとされており、7月6日発表の1ヶ月予報によると、今後1ヶ月は平年に比べて気温が高いことが予報されているため、本病の発生に好適な条件が続くと考えられる。

5. 防除対策

- 1) 初発直後までに散布を開始する。
- 2) 散布間隔は14日以内とし、高温多湿の気象条件下では発病が急激に進展するので散布間隔を10日以内にする。
- 3) DMI剤低感受性菌が道内で確認されているため、作用機作の異なる薬剤を組み合わせた体系防除を実施する。
- 4) QoI剤耐性菌の発生が広範囲に確認されているため、褐斑病に対する防除薬剤として、QoI剤（アズキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン）は使用しない。
なお、根腐病および葉腐病に対するQoI剤の使用回数は、登録の範囲内とする。
- 5) カスガマイシン・銅水和剤は他の薬剤よりも残効期間が短いので使用にあたっては留意する。
- 6) 本病に特に罹病しやすい品種が栽培されている地域では本病の発生推移に注意する。